2017 年(平成 29 年)09 月 12 日

試 験 報 告 書

依 頼 者　　オーブ・テック株式会社

一般財団法人
日本食品分析センター
東京都渋谷区元代々木町52番1号

検　　体　　銀イオン水1

表　　題　　消臭剤効力試験

2017 年(平成 29 年)08 月 21 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

本報告書を他に掲載するときは当センターの掲載規約をお守りください。

消臭剤効力試験

1　依 頼 者

オーブ・テック株式会社

2　検　　体

銀イオン水1

3　試験概要

検体の化学的作用等による消臭効力を検知管法により試験した。試験方法は，芳香消臭脱臭剤協議会「一般消費者用　芳香・消臭・脱臭剤の自主基準　実施要領」(平成22年11月25日改定)の[Ⅱ]-2 消臭剤効力試験方法(化学的消臭)に準じた。

悪臭物質として，アンモニア及び酢酸を対象ガスとして試験を行った。

4　試験実施年月日及び試験実施者

1)　試験実施年月日

アンモニア：2017年08月28日～2017年08月29日

酢酸：2017年08月28日

2)　試験実施者

一般財団法人日本食品分析センター　多摩研究所

試験研究部　応用試験課

森田　公平　，　礒島　里絵　，　猪之鼻　修一

5　試験結果

試験結果を表-1に示した。

表-1　試験結果

悪臭物質名	90 %除去時間 $\tau_{0.1}$(min)*				反応式	判定基準
	1回目	2回目	3回目	平均値		
アンモニア	>600	>600	>600	>600	算出せず	$\tau_{0.1}$(min) ≦600
酢酸	<5	<5	<5	<5	算出せず	

＊　検体使用量：スプレー回数10回の場合

解析データ

試験対象ガス：　アンモニア

経過時間 t(min)	1回目			2回目			3回目		
	ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	検体 C(ppm)	補正値 C_t(ppm)	ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	検体 C(ppm)	補正値 C_t(ppm)	ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	検体 C(ppm)	補正値 C_t(ppm)
0	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5	100	45	45	100	44	44	100	44	44
10	97	35	38	97	37	40	97	37	40
30	94	26	29	94	27	30	94	28	31
60	89	23	28	89	24	29	89	24	29
180	78	20	31	78	20	31	78	21	32
360	68	17	27	68	18	28	68	18	28
1440	46	12	34	46	13	35	46	13	35

〈計算式〉

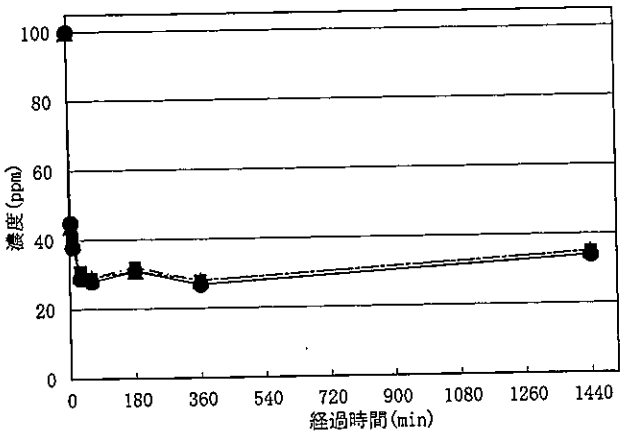
$C_t = C + (C_{bt-1} - C_{bt})$

C_{bt}：ﾌﾞﾗﾝｸのt分後の悪臭濃度(ppm)

C　：検体のt分後の悪臭濃度(ppm)

C_t：補正後の検体のt分後の悪臭濃度(ppm)

C_0：初期悪臭濃度(ppm)



●：1回目，▲：2回目，■：3回目

経過時間ごとの悪臭濃度

解析データ

試験対象ガス：　酢酸

経過時間 t(min)	1回目 ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	1回目 検体 C(ppm)	1回目 補正値 C_t(ppm)	2回目 ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	2回目 検体 C(ppm)	2回目 補正値 C_t(ppm)	3回目 ﾌﾞﾗﾝｸ C_{bt}(ppm)	3回目 検体 C(ppm)	3回目 補正値 C_t(ppm)
0	50	50	50	50	50	50	50	50	50
5	50	3	3	50	3	3	50	3	3
10	50	2	2	50	2	2	50	2	2
15	43	<1	<1	43	<1	<1	43	<1	<1

<計算式>

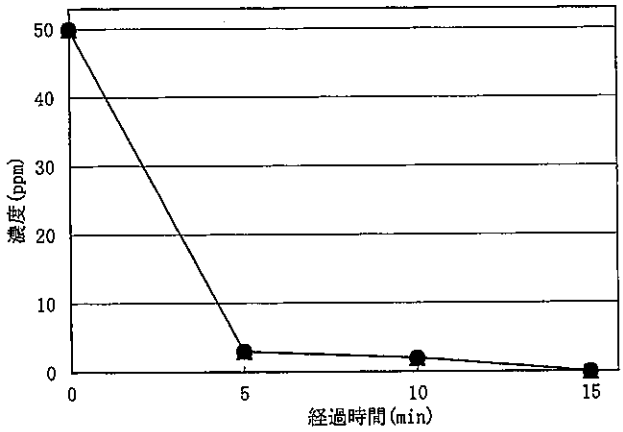
$C_t = C + (C_{bt-1} - C_{bt})$

C_{bt}：ﾌﾞﾗﾝｸのt分後の悪臭濃度(ppm)

C　：検体のt分後の悪臭濃度(ppm)

C_t：補正後の検体のt分後の悪臭濃度(ppm)

C_0：初期悪臭濃度(ppm)



●：1回目，▲：2回目，■：3回目

経過時間ごとの悪臭濃度